

本文

【白文】

虎求_レ百獸_ニ而食_レ之、得_レ狐。狐曰、「①子無_ニ敢食_レ我_ニ也。天帝使_ニ我長_ニ百獸_一。今子食_レ我、是逆_ニ天帝命_ニ也。子以_レ我爲_レ不_レ信、吾爲_レ子先行。子隨_レ我後觀、百獸之見_レ我而敢不_レ走乎。」
虎以爲_レ然、故遂與_レ之行。獸見_レ之皆走。虎不_レ知_ニ獸畏_レ己而走_ニ也、以爲_レ畏_レ狐也。

【書き下し文】

虎(とら)百獸(ひやくじゆう)を求(もと)めて之(これ)を食(く)らひ、狐(きつね)を得(え)たり。狐曰(いは)く、「子(し)敢(あ)へて我(われ)を食(く)らふこと無(な)かれ。天帝(てんてい)我(われ)をして百獸(ひやくじゆう)に長(ちやう)たらしむ。今(いま)子(し)我(われ)を食(く)らば、是(これ)天帝(てんてい)の命(めい)に逆(さか)らふなり。子(し)我(われ)を以(もつ)て信(しん)ならずと為(な)さば、吾(われ)子(し)の為(ため)に先行(せんかう)せん。子(し)我(われ)に随(したが)ひて後(うしろ)にし觀(み)よ、百獸(ひやくじゆう)の我(われ)を見(み)て敢(あ)へて走(はし)らざらんや。」と。

虎(とら)以(もつ)て然(しか)りと為(な)し、故(ゆゑ)に遂(つひ)に之(これ)と行(ゆ)く。獸(じゆう)之(これ)を見

(み)て皆(みな)走(はし)る。虎(とら)獸(じゆう)の己(おのれ)を畏(おそ)れて走(はし)るを知(し)らずして、以(も)つて狐(きつね)を畏(おそ)ると為(な)すなり。

【注】

- 子(し)…あなた。二人称。ここでは虎が狐を呼ぶ語ではなく、狐が虎に対して用いる。
- 無敢～(あへて～なかれ)…決して～してはならない。禁止。
- 長(ちやうたり)…かしら・統率者である。「百獸に長たり」で「あらゆる獸のかしらである」。
- 使(～をして…しむ)…～に…させる。使役。
- 為(なす)…思う・みなす。「以て～と為す」で「～だと思う」。
- 走(はしる)…逃げる。古典では「走る」は多く「逃げる」の意。
- 然(しかり)…そのとおりだ。
- 畏(おそる)…おそれる。

設問

1. 傍線部①「子無敢食我也」を書き下し文に改めよ。
2. 傍線部①「子無敢食我也」を現代語訳せよ。
3. 「子無敢食我也」の「無敢」は、どのような意味・働きを表す句法か。答えよ。
4. 「天帝使我長百獸」を書き下し文に改めよ。
5. 「天帝使我長百獸」を現代語訳せよ。
6. 「天帝使我長百獸」の「使」は、どのような句法を表すか。漢字二字で答えよ。
7. 「是逆天帝命也」を現代語訳せよ。
 - 「是」が指し示す内容を明らかにして訳すこと。
8. 本文中の「走」は、現代語の「走る」とは異なる意味で用いられている。その意味を答えよ。
9. 「子以我為不信」を書き下し文に改めよ。
10. 「子以我為不信」を現代語訳せよ。
11. 「吾為子先行」の「為」の読み(送り仮名も含む)と意味を答えよ。
12. 「百獸之見我而敢不走乎」を書き下し文に改めよ。
13. 「百獸之見我而敢不走乎」を現代語訳せよ。
14. 「百獸之見我而敢不走乎」の「敢不～乎」は、どのような句法か。答えよ。
15. 「虎以為然」とあるが、虎は何を「然り(そのとおりだ)」と思ったのか。具体的に説明せよ。
16. 「獸見之皆走」とあるが、獸たちは何を見て逃げたのか。本文の内容をふまえて答えよ。
17. 獸たちが逃げた本当の理由を答えよ。
 - 狐を恐れたのか、虎を恐れたのか、どちらかを明らかにして答えること。
18. 虎は、獸たちが逃げた理由をどのように誤解したか。説明せよ。
19. この話における「狐の論理」とは、どのようなものか。簡潔に説明せよ。

20. 故事成語「虎の威を借る狐」の意味を答えよ。

21. 「虎の威を借る狐」において、「虎」と「狐」は、それぞれどのような立場の者をたとえているか。答えよ。

22. この故事の出典となった書物の名を答えよ。